

法音

今月の
ご法話

人は言葉によって生かされる

日蓮宗

法音寺

令和2年

4月号

No.606

知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
受けた恩に感謝しましょう。
恩を忘れぬ人は信頼されます。
今日一日、
人に親切にしましょう。
人が喜び、自分もうれしい。
仏の教えは
知恩報恩の人となることです。

月刊・法音 令和2年4月号 No.606 目次

【信仰の指針】言辞施ごんじせ 柔らかな言葉を使いましょう 1
【朝のこない夜はない】
人は言葉によって生かされる 山首 鈴木正修 2

◆ 釈尊降誕会（花まつり）が厳修されます 23

◆ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 24

◆ 法音寺は「信仰と福祉のお寺」です 26

◆ まんが・季節ものがたり・花まつり 27

◆ 「釈尊降誕会（花まつり）」について 35

◆ 知っているようで知らなかった!? 法音寺のこと④ 38

◆ お寺の本棚 42

◆ のりのね体験 44

◆ 災害支援部会・青少年育成委員会・信教師会 46

◆ 支院だより 49

◆ 福祉のひろば 71

○ 幸せのお手伝い 72

○ 昭徳会・第12回福祉実践発表会を開催 74

○ 日本福祉大学・三重県と就職支援協定を締結 76

◆ 賛助員ご芳名 78

◆ 幸せの種まき／編集後記 80

◆ 連載まんが・ひまわり・87 ボクは予知能力者 81

◆ 法音寺物語 80

◆ 法音寺の社会福祉・教育事業 81

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま書 表紙写真・サクラ

掲載写真 表紙・信仰の指針・3～23頁・梅田雅臣氏撮影
2頁・加納将人氏撮影

信仰の指針

ごん
じ
せ

言辭施

柔らかな言葉

使いまししょう

日教五



沈丁花



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

人は言葉によって生かされる

杉山先生はよく「今日一日の堪忍」というお話をされました。『仏説観普賢菩薩行法経』に次のような一節があります。

「この舌の過患無量无边なり。諸の悪業の刺は舌根より出づ」

堪忍はまず口・言葉からだと思います。人は口がすぐに動きます。「暑い」「寒い」がその良い例です。杉山先生は、暑さ寒さの挨拶もされなかったということです。

「先生、お暑うございます」

「先生、お寒うございます」

信者さんからこういう言葉をかけられても、杉山先生はそれに相槌を打つことなく、頭を下げて会釈をされるだけだったということです。では、杉山先生は暑さ寒さをあま



り感じないお方であったのかというと、決してそうではありません。

暑いとか寒いという挨拶は、ややもすると愚痴になり、堪忍破りになりかねないので、杉山先生はそれを警戒されたのだと思います。

江戸時代に熊沢蕃山という陽明学者が、徳を養う方法は言葉を慎むことである、と、その著作『集義和書』の中で述べています。大変参考になる教えです。

「心友問う。入徳の功、いずれの所よりはじまるべきや」
徳を養うにはどこから始めたらいいか」という問いに対して、

「云う。精神の収斂するよりはじむべし」

「気持をひきしめることから始めなさい」と言っています。そして、

「精神を収斂することは言を慎むよりはじまれり」



氣持ちをひきしめるのは、まず言葉を慎むことから始まる。と言っています。

「是、口は好みを成し兵をおこすといえり」

言葉というものは誰しも相手によって、気分によって変わるものです。これが「口は好みを成す」ということです。言葉は時に人を傷つけ、喧嘩になることもあります。殺し合いになることまであるのです。ですから「兵をおこすといえり」というのです。

「誠に吉凶のかかる所也」

人生の吉凶禍福は言葉によるところ大なり。ということ
です。

「悪口妄言、世俗の卑辞は、少し心ある人はいわず」

人の悪口やいい加減なこと、また世俗の下品でいやらしいことを心ある人は言わないものだ。

「言の発し易きことは吾人の通病也」

つい口がすべって、言わなくてもいいことを言ってしまう



うのは、我々の陥りやすい病氣だ」といっているのです。

「すべて言はいいて人の益とならず、己いべき義理なくば黙するにしかず」

正しいことだからといって、言えばいいかというところではない」といっています。時と場所、相手によって言うて良い時と悪い時があるのです。口にすべきよほどの理由がなければ、黙っていた方が良い場合が多い」といっています。

「行の悪しきは悔い改めて、後は善也。言の失は物に及びて害あれば、悔いと見えどもかえらず」

行いというのは後で悔い改めればすむが、一旦口から出た言葉というのは相手を傷つけ、いくら悔いて謝ろうが元に戻らない」といっているのです。

「故に君子はこれをはじめに慎むなり」

故に、徳の高い人はまずはじめに言葉を慎む」といっています。



昔、「黙養」という修行があったそうです。まず一日黙して一語も発しない。ついで三日黙する。それができたら、一週間、一カ月、三カ月と黙する。これを三年続けて一語も発しなければ、大変な人物と評された。そうです。三年黙するというのは難行中の難行であろうと思います。しかし、それぐらい昔の人は口を慎むということを重視していたのだと思います。

「悟」という字は一説には「口を慎む」ことが字義だそうです。

この字は偏ではなく旁に意味があり「吾」の上の「五」は又で、草を刈る艾と同義の字。「吾」は「口を刈る」、すなわち、余計なことを言わない。悟りとは、口を慎むということだそうです。

しかし、言葉というものは使えば人を生かす、励ますことができます。「言辞施」と言われているよ



うに、徳を積むことができるものです。家族や友人、師の言葉に生かされ、励まされたことは誰しも人生においてあるはずです。

『氷点』という小説が朝日新聞の懸賞小説で入選し、そこから作家デビューをされた三浦綾子さんという方がいます。三浦さんは学校の先生をしておられましたが、終戦後まもなく先生を辞められました。辞められた直後に結核に罹られました。24歳の時です。そして37歳に至るまで十三年間ずっと療養生活を続けられました。最後の四年間は脊椎に結核菌が入って脊椎カリエスになり、ギブスベッドに固定され寝たきりの生活でした。その絶望的な状況を三浦さんは周りの人達の愛の言葉で乗り越えられました。三浦さんが言っておられます。

「24歳で倒れ、37歳で嫁ぐまで、年頃の娘が病人でいたわけですからね、両親の嘆きは想像を絶するものがあります。



しかも、ギブスベッドで寝たきりになった数年間（すうねんかん）は母（はは）は便器（せき）の世話（せわ）もしなければならなかった。52歳（さい）から65歳（さい）までの年月（ねんげつ）を、寝（ね）たきりの私（わたし）の看病（かんびょう）のために外出（がいしゅつ）もままならなかった。そんな私（わたし）に母（はは）は不平（ふへい）一つ言（い）わず、『綾（あや）ちゃん、どんなに長いトンネルでも限り（かぎ）がある。必ず（かならず）トンネルを出（で）る日が来（く）るよ』と励（はげ）ましてくれました。それから父（ちち）が言（い）った言葉（ことば）、これもよく思（おも）い出（だ）します。『綾（あや）子（こ）、弱（よわ）く生（う）んですまなかつたな』。謝（あやま）らなければならぬのは幾（いく）年月（ねんげつ）、たくさんのお金（かね）を使（つか）わせ、心配（しんぱい）をかけた私（わたし）のほうなのに、そう言（い）ってくれた父（ちち）の言葉（ことば）にこもる優（やさ）しさも、私（わたし）を力（ちから）づけてくれました」

三浦（みづら）さんが最（も）も力（ちから）づけられたのが後（のち）に旦那（だんな）さんになる光（みつ）世（よ）さんです。結核（けっかく）で寝（ね）ている間（あいだ）に出会（であ）われたのですが、光（みつ）世（よ）さんは寝（ね）たきりの三浦（みづら）さんにプロポーズをしたのです。

「出（で）会（あ）ってから一年（ねんご）後（ご）でした。いつ治（なお）るかわからないギブスベッドに寝（ね）たままの私（わたし）に、しかも二（に）つ年（とし）上（うえ）の、30を幾（いく）つ



か越した、子どもも産めない私に、彼は結婚を申し込んでくれたのです。それから誠実に彼は私の癒えるのを待っていてくれました。そのお陰で13年の療養を終え、私が37歳、彼が35歳の時に結婚することができたのです。彼には結婚を勧める人がいたり、ラブレターをくれる人がいたんです。それをいつ治るかわからない私を待っていてくれたのです。私は自分のことながら、この結婚に感動します」

三浦さんは周りの人の愛の言葉によって十三年間の療養生活を乗り越えて、作家生活に入れ、夫・光世さんの支えによって『塩狩峠』『道ありき』『銃口』などの著作を世に出され、今なお多くの人の心に希望と感動を与え続けています。

13世紀の頃、神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世という王がいました。この王は、人間はすべて自分本来の言葉を持って生まれてくるはずだと固く信じていました。その考え



を実現しようとして、生まれたばかりの赤ちゃんを国中から集めて、養育係に「ミルクは与えよ。しかし、一言も話しかけてはならん。必ず自分の言葉を話し始めるから、それを待て」と厳命しました。養育係は王の命令を守ってミルクは与えましたが、絶対に言葉をかけませんでした。すると、赤ちゃん達は衰弱してみんな死んでしまいました。言葉をかけるか、かけないかということが、実に生死にかかわる大問題だということなのです。

聖書の有名な言葉を思い出します。「人はパンのみにて生きるにあらず。神の口より出づるすべての言葉によって生きるのである」

人間は言葉によって生かされているのです。

人材育成家の染谷和巳さんという方がいます。その方の本にあった話です。

「課長の宮崎（仮名）はある日、専務に呼ばれて『地方堂



営業所の立て直しをやってくれ』と指示をされた。その営業所は立て続けに5人も所長が替わって、その内、3人はそのまま会社を去っていった。『あの人あそこに行くの。左遷だね』と社内の誰もが噂をした。宮崎自身もそう思った。帰宅して妻に話すと『どうしてあなたがあんなところへ』と泣き騒ぐかと思ったら、ニコニコ笑って『むしろ営業所らしいけど、何とかなるわよ、あなたなら。行くのが楽しみ』と言ってくれた。『だってあなた、今の会社が好きなんです。社長さんを尊敬しているんですよ』と。それを聞いて、のしかかっていた暗雲がいっぺんに吹き飛んだ。宮崎の覚悟は決まった。就任から三年、宮崎はメキメキ業績を伸ばし、売り上げで全営業所のトップとなり、所長会議で表彰された」

左遷だ〴〵と周りも、本人も思い込んでいましたが、奥さんの一言で、人生が好転したのです。



現在、北九州一円でビジネススクールを経営しておられる税理士の池田繁美さんは、税理士になるために一生懸命勉強をしたので、それを活かそうと思って簿記教室を始めました。しかし、人に教えるということはむずかしいものです。教室が始まるとき、奥さんに「生徒さん達と一緒に教室に座ってくれないか。そして、どこか間違えたら、あるいは、おかしいなど思ったら指摘してほしい」と頼みました。奥さんは商業高校の出身で、会社の総務と実務をずっとやってきた人でした。ある意味、池田さんよりも簿記について詳しくかったです。最初は緊張をして、帳簿の左側の借方と右側の貸方を言い間違えるなど基本的なミスを頻繁にしていました。授業が終わって、池田さんが「どうだった？」と奥さんに聞くと、奥さんは「ええ、とてもすばらしかったですよ」と答えました。次の日も次の日も奥さんに聞くと「ええ、とてもすばらしかったですよ」と奥さんの答えはいつも一緒でした。そんなある日、「どうだ



った」と聞くと「いつもと同じようにとてもすばらしかったですよ」と答えるので、池田さんは「そんなことはないだろう。ほら、あそこのところ、自分でも言い間違えたことに気がついたよ」と言うと、奥さんは「だから直ぐにそのあとで訂正をされ、皆さんも納得されたではありませんか。だからとてもすばらしかったんですよ」と、万事こな調子で、他の人が聞いたら、間違いだらけでよく先生をやっているなぐという感じだったらいいのですが、ほめられることで段々授業がうまくなり、数年経った頃には福岡県下でも有数の簿記教室になり、「あそこに通うと合格できる」という噂が広まるくらいでした。そして、近隣の山口県や大分県からも生徒が来るようになりました。池田さんは「すべて家内のお陰だ。家内の『とてもすばらしかったですよ』という言葉のお陰だ」と言っておられます。家族や恋人の言葉によって、また旦那さんは特に奥さんの言葉によって変わるものだと思います。また、先生や、



会社の上司の言葉によって人生が変わることもあります。

東北大学のある先生の話です。その先生の教え子は非常に優秀なエンジニアや研究者になったといえます。その先生が亡くなった時、先生の記念碑を建てようということになりました。記念碑に刻む言葉はすぐに全員一致で決まりました。それは「君、それはいい。やってみよう」でした。学生達が「先生、こんなのどうでしょうか」と言うと、どんな提案に対しても必ずその先生は「君、それはいい。やってみよう」と言ったそうです。

京セラ、KDDIを創り、日本航空を倒産から再上場に導いた稲盛和夫さんも、「ある人の言葉によって自分の人生は変わった」と言われています。

稲盛さんは鹿児島大学を卒業後、京都で絶縁ガイシを作る松風工業という潰れそうな会社に入社しました。大学で



は有機化学を勉強していました。ガイシは磁器で無機化学です。急遽、就職が決まったので卒論のテーマを無機化学に変えて勉強を始めました。卒論が書き上がったところで、たまたま無機化学の第一級の先生が鹿児島大学にやってきたので、その先生に見てもらったそうです。内野正夫という先生です。この方は旧制の帝国大学の応用化学科を出て、戦前、満州で活躍をされた一級の先端技術者でした。この方が稲盛さんの卒論を見て「すばらしい」と言っただけです。その日に「一緒にコーヒーを飲みに行こう」と誘ってもらい、稲盛さんは初めてコーヒーを飲んで、
「こんなまずいものをよく飲むな」と思ったそうですが、もう一つ印象に残っているのが「君はきつとすばらしいエンジニアになりなすよ」と言われたことです。今でもその言葉が忘れられない程、うれしかったそうです。それから稲盛さんは松風工業に行きました。潰れそうな会社でしたので、給料がもらえたり、もらえなかったりして、暗澹た



る思いでいると、内野先生は東京出張の際に電報をください。特急つばめが京都駅に停まる少しの時間に、デッキで稲盛さんにアドバイスをされたそうです。その都度「稲盛君頑張れ。絶対、君はどんな会社にもいたって頭角を現すことができる。くさらずがんばれ」という励ましの言葉があったそうです。その言葉のお陰か、稲盛さんは松風工業でセラミックスの開発に成功し、松風工業で稲盛さんの部門だけが黒字のドル箱部門になったのです。ところが上司の理不尽な仕打ちによって、稲盛さんは会社を辞めることになりました。そこで思い出したのが、前年にパキスタンからの実習生に言われたことでした。その実習生は、パキスタンで絶縁ガイシを作っている大きな会社の御曹司でした。稲盛さんに「パキスタンに来て工場長になってくれないか。うちの父が松風工業の何倍もの給料を出すと云っている」と言ったのですが、その時は断ったそうです。しかし、会社を辞めるとなった時にその話を思い出し、パキスタンに



手紙で「去年の話だが、まだ採用してくれるか」と連絡をとりました。すると「もちろんだ。ぜひ、採用したい」と返事が来ました。ちようどその時、内野先生から「今度また、東京出張の折に京都駅に寄るから、稲盛君ちよつと話をしないか」と連絡がありました。そして、会った時に稲盛さんが「パキスタンに行きたい」という話をする、内野先生は即座に「絶対にパキスタンに行つてはいけません。せっかくここまで培ってきた技術をパキスタンでただ切り売りしていたのでは、数年後日本に帰ってきた時に、エンジニアとしてあなたは使われるものにならなくなっているでしょう。あなたがいない間に日本の技術は日進月歩で進んでいくはずですよ。絶対にパキスタンに行つてはいけません。石にかじりついてでも日本で頑張らなさい」と言われ、稲盛さんはパキスタン行きを断念されたそうです。稲盛さんは言われます。「今思えば、もしあのままパキスタンに行つていたなら、私はファインセラミックスの世界の入口を垣



間見ただけの、中途半端なエンジニアとして終わっていた
でしょう」

その後、稲盛さんと内野先生との師弟関係は続き、内野先生が亡くなる直前、稲盛さんが病院に見舞いに行かれると、内野先生はもう骸骨のように痩せていらしたそうです。しかし、その骸骨のようになった内野先生が破鐘のような大きな声で「おお、稲盛君。大したもんだ。大したもんだ」とほめてくださったそうです。京セラの発展を自分のことのように喜んでおられたのです。

稲盛さんの言葉です。「いま思い返しても、内野先生との出会いがなければ、また内野先生からいただいたさまざまなアドバイスがなかったならば、私の人生は、また京セラの経営は、全く異なったものになっていたと思います」

かつて大阪に「伝説のドアマン」と呼ばれる人がいました。名田正敏さんという人です。この人は家が貧しくて、



小学校を出てすぐに働きに出ました。いくつか仕事を変わった後、縁あって大阪のロイヤルホテルの駐車場配車係の仕事につきました。ロイヤルホテルは超一流ホテルです。名田さんはだんだん心が委縮して行って、ある日、部長に辞表を出しに行きました。

そこで、部長が言いました。

「名田君、人と比べて一喜一憂せず、自分の土俵を作りなさい。『名田正敏、ここにあり』というものを作りなさい」

名田さんは部長に励まされて、ホテル勤めを続けました。ある日の夜のパーティーの終了後のことです。配車係のチーフが会場から出てくる参加者の顔を見るなり、次々にマイクで「○○会社の○○常務様のお車どうぞ」というように呼ぶのです。名田さんは「これだ」と思いました。

それから、名田さんは関西の有名企業四百社のトップ十人、合計四千人の名前と顔を覚えることを決心しました。完全に覚わった頃、名田さんはマイク係を任されるように



なりました。

また名田さんは、ドアマンとしてホテルの玄関脇に立った時、到着した車に「○○様、ようこそいらっしゃいました」と名前を呼ぶようにしました。

そして、車から降りて玄関まで歩くわずかの間に会話をするようになりました。これでお客さんの心に名田さんのひとが刻み込まれていきました。するとその内、「名田さん、今度うちの息子が結婚することになってね。お宅で式をやりたいから会場を予約しておいてくれるかな」などと頼まれるようになりました。多い時で、名田さんを通して、なんと四億円もの仕事が入ってきました。そして、名田さんは副支配人にまでなっていくのです。

名田さんの定年退職の時、大阪の財界人がお別れのパーティーを開いてくれました。そこに集まった財界トップの人数はなんと350人だったそうです。それ以来、名田さんは「伝説のドアマン」と呼ばれるようになったのです。



最後に名田さんの言葉です。

「あの部長さんの言葉がなかったら、今の自分の人生はなかったでしょう。あの言葉で私はお客さまの名前と顔を覚えるようになり、覚えると不思議なことに、お客さまが私を大切にしてくださるようになったのです」

名田さんの相手の名前を覚え、温かい声掛けをいつも心掛けるという行為は、正に言辭施であろうと思います。



今月は全国の各支院・布教所にて

釈尊降誕会(花まつり)が厳修されます

お釈迦さまの誕生をお祝いし

正しく生きることをお誓いしましょう

法音寺本山では4月7日(火)に営まれます

皆さまのご参詣をお待ちしています

◆今月の山首上人さまご親修日程

西春支院	4月2日(木)	豊川支院	4月4日(土)
四日市支院	4月13日(月)	東京支院	4月18日(土)

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	5日・18日・25日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	7日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	5日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・25日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	4日・12日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0568)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	5日・14日・18日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・12日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3-4-75	☎(0595)21-0127

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	5日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	12日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	5日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	11日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	5日・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	5日・19日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	11日・26日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	5日・19日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	12日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	5日・15日・19日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)44-5445
筑後布教所	12日・26日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	12日・26日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・19日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・18日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	13日・26日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

法音寺は「**信仰**と**福祉**のお寺」です



困っている人達の助けになることで、
法音寺には“**功德**”が積み重ねられています

(功德とは、「幸せを引きよせる種」です)

その功德が信仰を通して
皆さんに授けられるのです



法音寺による社会貢献

社会福祉法人昭徳会の運営を基に
現在1,400名を越える人達のお世話をさせていただいています



**福祉のすべての分野を支え、
利用者さんの幸福を実現します**



児童福祉施設

親と暮らせない約170名の子ども達の
生活を支えています

保育園

毎日370名余りの園児達の
成長を見守っています

障がい児・障がい者施設

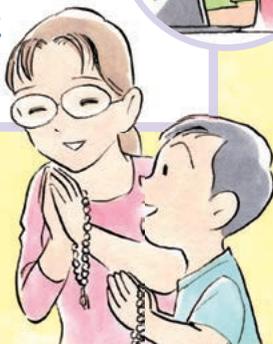
300名を越える人々に
日々希望を与えています

高齢者施設

600名ほどのお年寄りに
寄り添っています

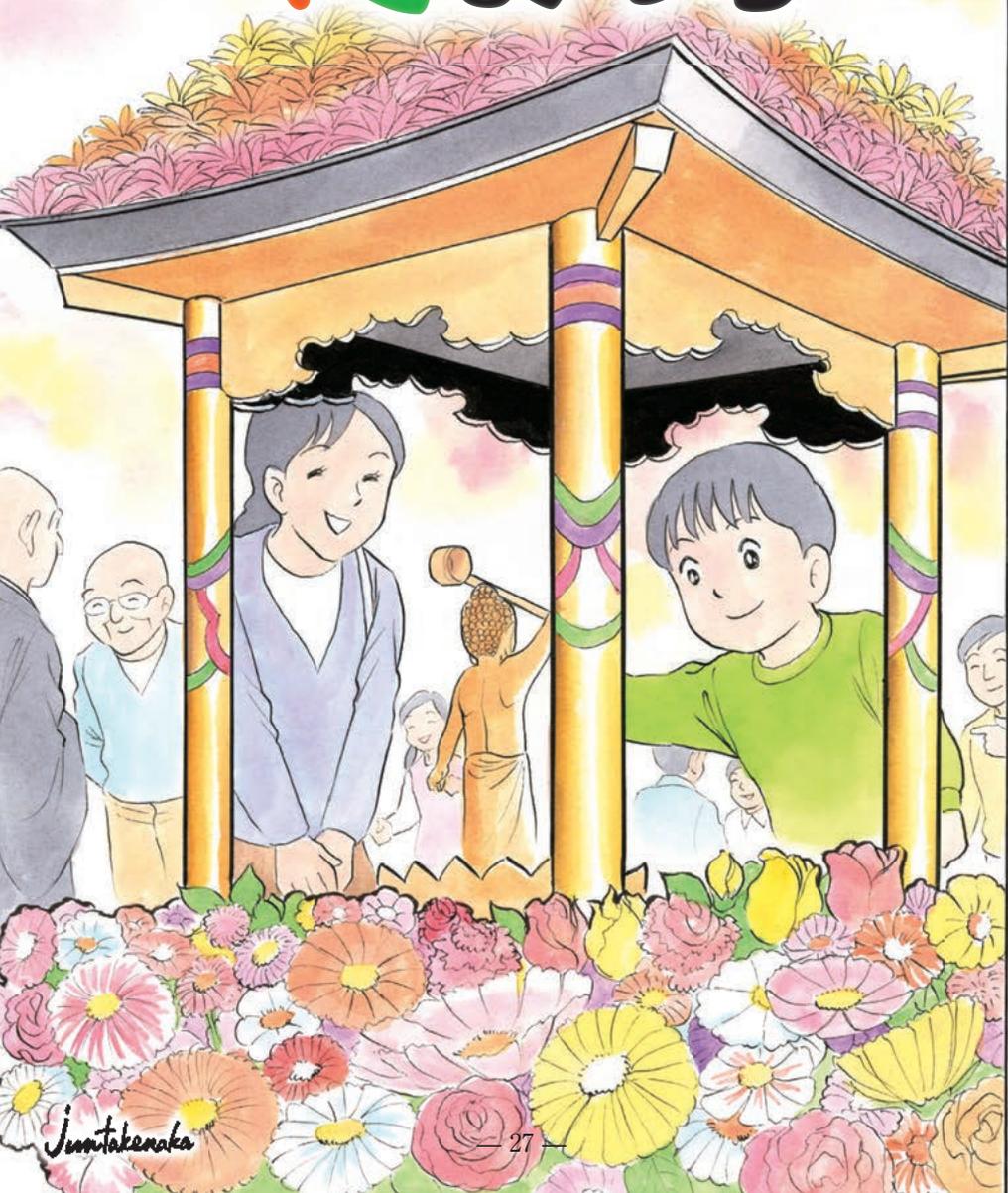


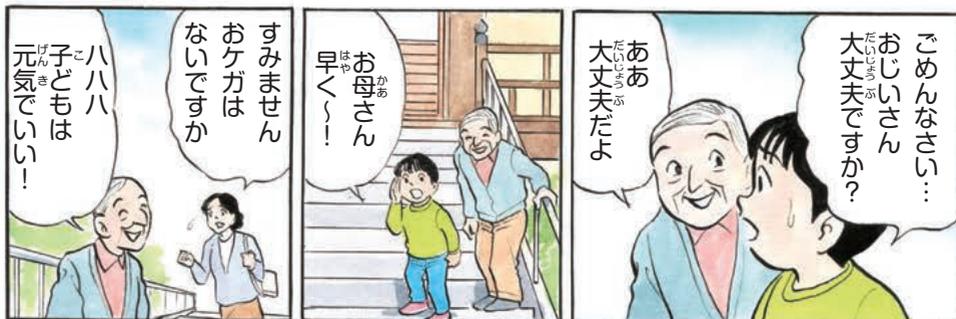
学校法人日本福祉大学を通じて
児童養護施設出身者の就学金に
皆さんの浄財が使われています



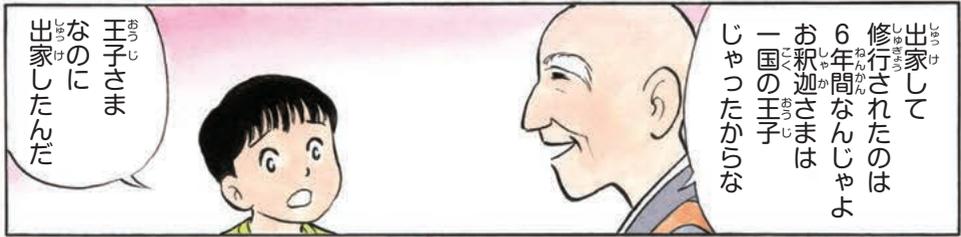
季節ものがたり
お寺にお参りシリーズ

花まつり





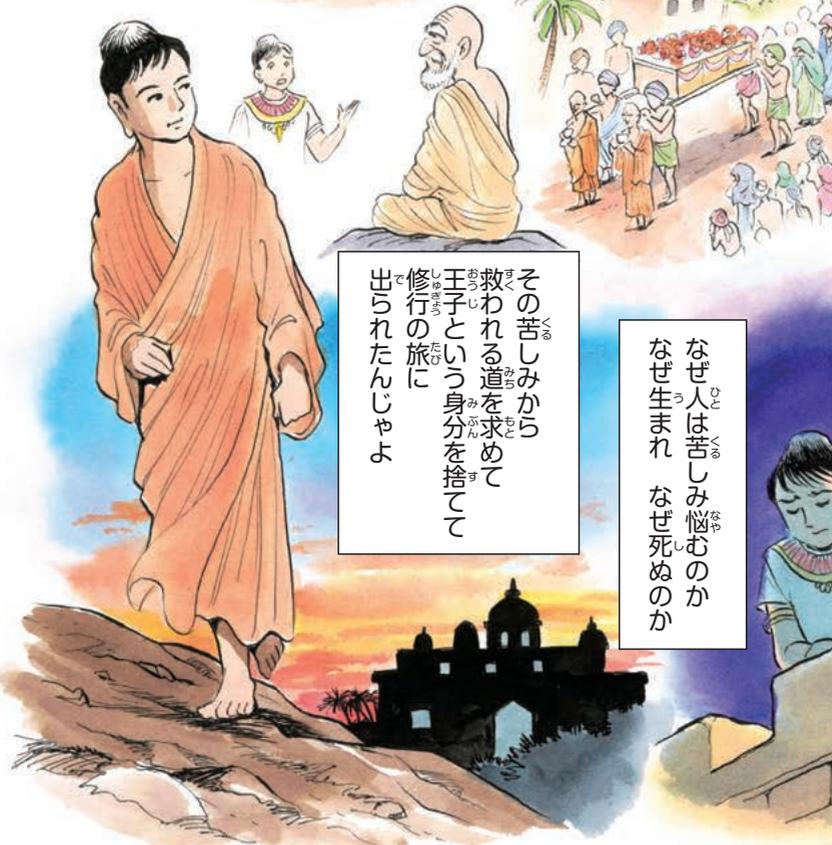


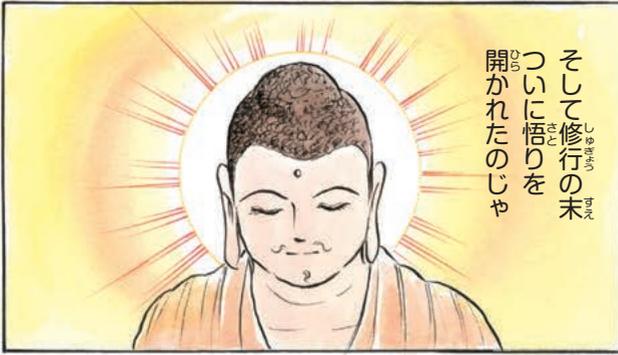


ある時
力なく衰えた老人や
苦しみにあえいでいる
病人に会い…

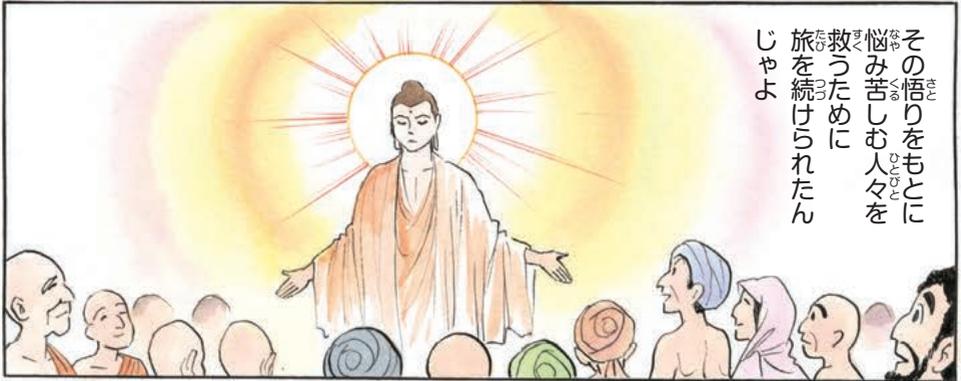
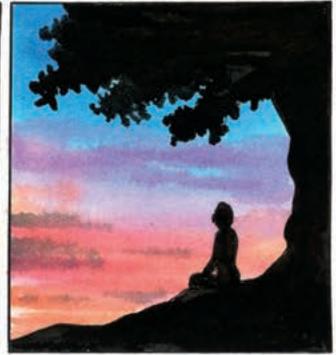


大勢の人々に送られる
お葬式の列や
修行する
出家者に会い…





そして修行の末
ついに悟りを
開かれたのじゃ



その悟りをもとに
悩み苦しむ人々を
救うために
旅を続けられたん
じゃよ



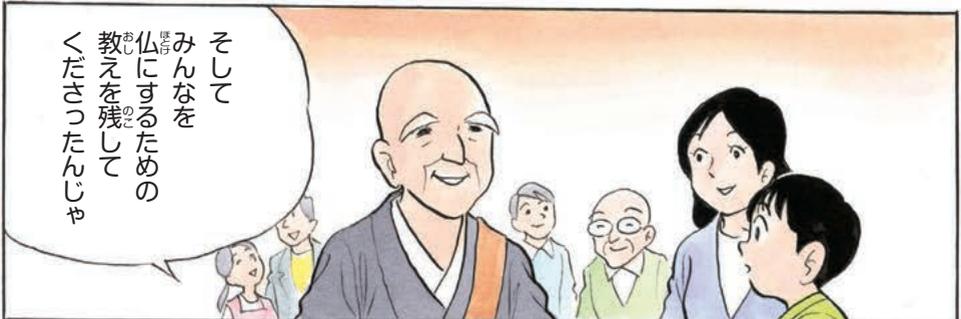
ただお釈迦さまは
「みんなも私と
同じことができるよ」と
おっしゃってゐる

そうじゃのう
たしかにむずかしい
ことじゃ

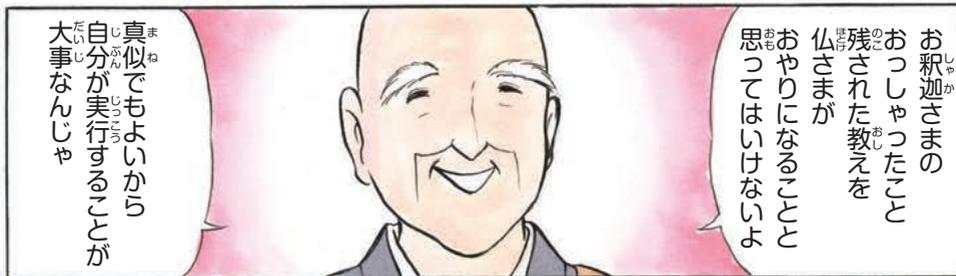


ボクには
できないよ

すごいなあ
王子の位を
捨てて
人々を救おう
なんて…

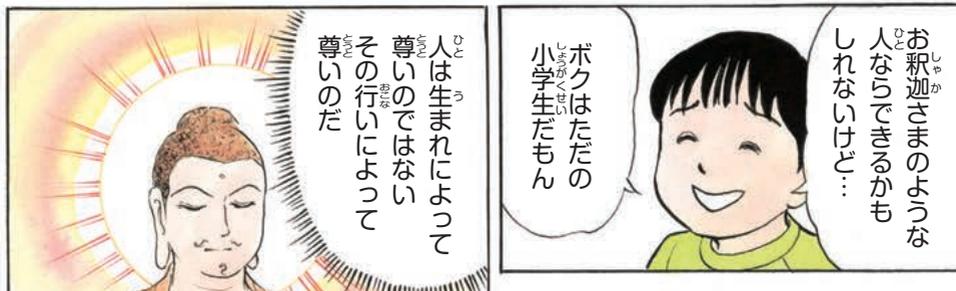


そして
みんなを
仏にするための
教えを残して
くださったんじゃ



お釈迦さまの
おっしゃったこと
残された教えを
仏さまが
おやりになること
思っはいけないよ

真似でもよいから
自分が実行することが
大事なんじゃ



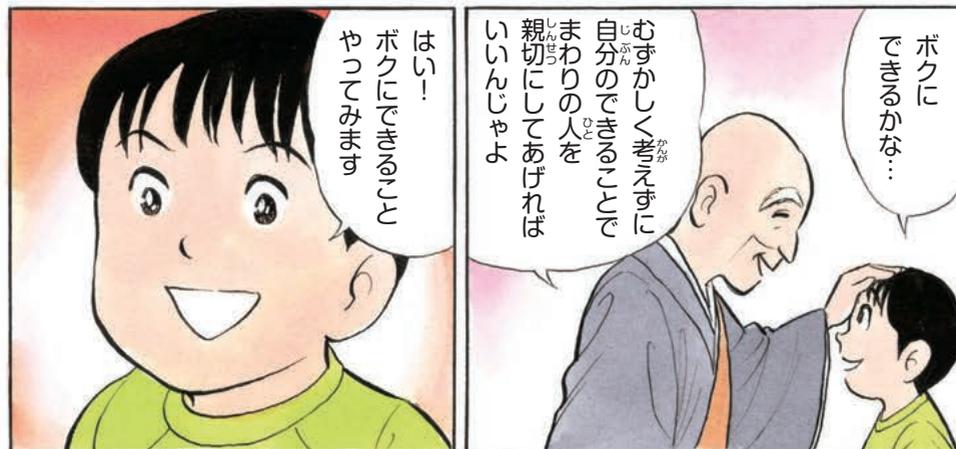
お釈迦さまのような
人ならでできるかも
しれないけど…

ボクはただの
小学生だもん

人は生まれによって
尊いのではない
その行いによって
尊いのだ



大事なことは
今の自分に
できることを
一生懸命やることじゃ



ボクに
できるかな…

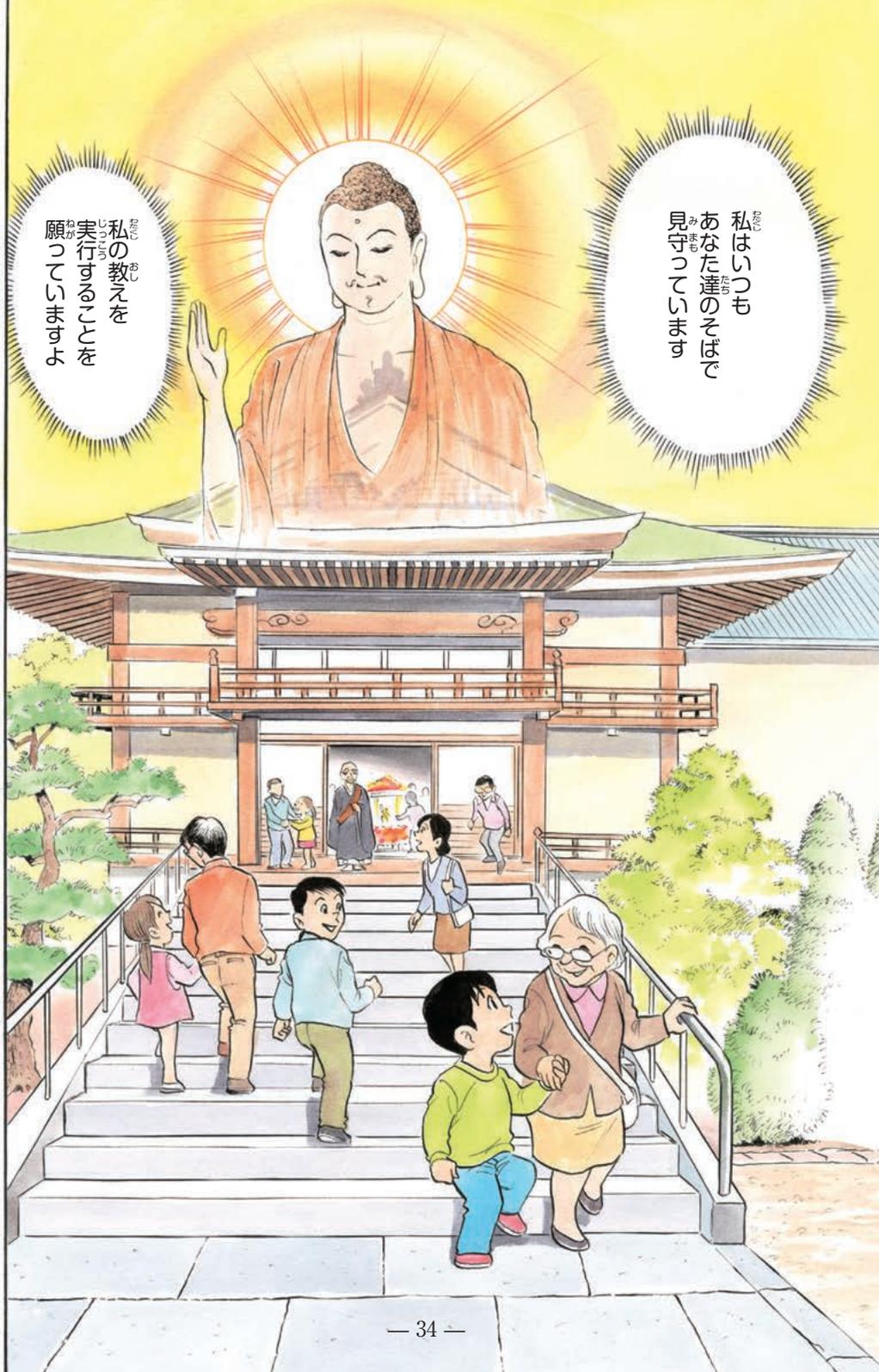
むずかしく考えずに
自分のできることで
まわりの人を
親切にしてあげれば
いいんじゃないよ

はい！
ボクにできること
やってみます



私わたくしはいつも
あなた達あなたたちのそばで
見守みまもっています

私わたくしの教おしえを
実行じっこうすることを
願ねがっていますよ



「釈尊降誕会（花まつり）」について

4月8日は**釈尊降誕会**として全国の寺院で法要が営まれています。

お釈迦さまが釈迦族の王子として、今からおよそ2500年前の4月8日、ネパールの「ルンビニー園」でお生まれになった聖日です。

花まつりという名称で親しまれ、甘茶を飲む習慣があります。

日本で最初に「花まつり」が行われたのは、聖徳太子が活躍していた紀元606年の4月8日とされています。

この日にお参りされる人々は、花で飾られた花御堂の中に安置した誕生仏に甘茶をかけます。

甘茶は、竜が産湯のかわりに天より甘露の香水を降らしたものを表しています。

現在の甘茶は漢方薬の一種の「甘草」を煎じたもので、飲むと健康になると言われています。お参りにこられた方は甘茶を持ち帰り、無病息災を祈って、家族みんなで分け合って飲む風習があります。



お釈迦さまは、色とりどりの花が咲きほこる「ルンビニー園」で、お生まれになつてすぐに七歩歩まれ、右手を天に、左手を地に向けておっしゃいました。

「天上天下 唯我独尊 三界皆苦 我当度之」

このお言葉は、天の上にも天の下にも、私一人こそが尊い、という意味であると同時に、人間は生まれや育ちにかかわらず、みな平等に尊い存在だ、ということも意味しています。また七歩歩まれたのは、私達が苦しみ続ける迷いの世界・六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上界）を離れる道を明らかにすることを表されています。

お釈迦さまが説かれたことは「すべての人が迷いを離れて本当の幸せになれる道」なのです。

しかし、三界は皆苦なりです。

「三界」とは「欲界・色界・無色界」のことで、いずれも迷いの世界です。

「欲界」は、食欲・財欲・色欲・名誉欲・睡眠欲（以上を「五欲」といいます）など、欲望のままに生きている世界です。

「色界」の色とは物質のことです。

色界に生きる人とは、物質的なことに意味を求める人です。

お金や名誉を求めて努力していても、欲望を満たすことは一時的で続きません。そこで形のある物質的なもので満足を得ようとします。



ところがこの世は「諸行無常」、形あるものいつかは必ず滅びます。変わらぬ幸せを得ることはできません。

「無色界」は物質的な欲から離れた人の世界です。

無色界に生きる人は、精神的なことで満足を得ようとします。

精神的なことであれば幸せになれるかと思いますが、その方向を間違えると気づかぬうちに迷ってしまい、本当の幸せにはなれません。

三界はみな迷いの世界、どんな人の人生も苦しみに満ちています。

しかしお釈迦さまは「我当度之」（その悩み苦しむ人々を本当の幸せに導こう）とおっしゃるのです。

始祖・杉山先生は「お釈迦さまのおっしゃること、経典に書かれてあることを、仏さまがおやりになること」とは思ってははいけません。真似でも良いから、自分が実行することが大事です」とおっしゃいました。

私達は仏さまの教えを聞く者として、教えられた通りに実行してまわりの人に喜びを与える菩薩行・三徳の実行に励み、誰にでも親切にして、少しでも苦しんでいる人の力になれるよう精進いたしましたしよつ。

知っているようで知らなかった!?

法音寺のこと④

↳ 難病根治への挑戦(1) 東洋病院 ↳

その昔、ハンセン病は「天刑病」などとさげすまれ、忌み嫌われていました。身内に患者がいることが世間に知られると、親族までが大変な差別を受けていました。家族を不幸な目に遭わせたくないと思うならば、密かに物乞いに紛れるなど身を隠すしかありませんでした。

仏教感化救済会のハンセン病患者救済は、大正4年に東京・巣鴨の東洋病院の支援から始まります。その挑戦は苦難に満ちたものでした。

ある日のこと、仏教感化救済会に「東京の東洋病院というハンセン病専門病院の経営が苦しく、資金を援助してくれる篤志家を捜している」と言ってきた人がいました。たつ（杉山辰子



先生)と齋(村上齋先生)は、現状を自分の目で確かめるべく、救済会本部を、てる(杉山先生の姉)に任せ、みつ(杉山先生の姪)を伴って東京に向かいました。

東洋病院は巢鴨駅から離れた竹藪に囲まれた一角にあり、15名程の患者が唐紙で仕切られた部屋に4〜5人ずつ生活していました。古びた畳、膿が染み込んだ布団。あたりには凄まじい臭気が漂っていました。そんな中、齋は寢食を忘れて新薬の研究に没頭し、たつは患者達の包帯を取り替え、みつは黙々と炊事場で

米を研ぎ、野菜を洗いました。すべてボランティアでした。

たつはお題目を唱え、患者達に功德を積むことを勧めましたが、ある女性は悲しげに首を振りながらこう言って泣き崩れたといいます。



「一度この病気になった者は、もう二度とこの地獄から抜け出ることはできないのです。たとえ回復したとしても、以前と同じように社会が受け入れてくれましようか。家族が喜んで迎えてくれるでしょうか。少しでも早く、誰の迷惑にもならぬようこの世から消えていくのがいいのです。もうこれ以上生き恥をさらしたくはありません」

たつは返す言葉が見つからず、ただ無言で背中をさするのみでした。

そんな日々を重ねていると、持ってきた資金がみるみる減り、たつは救済会本部に電報を打ち、お金や米を送るよう求めました。ところがある日、本部から手紙が届きました。

「救済会で都合のつくお金はもう何も残っていません」

たつは急遽名古屋に戻り、信者達を集めて病院の窮状を伝え、頭を下げて懇願しました。

「同じ人間に生まれながら、この病になったというだけで、世の中から背かれてしまった気の





毒な人達です。何としてもこのまま救援を続けたいのです。お願いします。私に皆さんの資産の一部を貸していただけられないでしょうか…」

あたりに重苦しい沈黙が広がる中、一人の男性が口を開きました。

「我々は杉山会長を尊敬していますし、おやりになっっていることも良いことだと思います。しかし、こんなことをしては我々の全財産を寄付しても不足が生じるでしょう

…」

〃救済会と関わると、せつかく貯えた大切な財産を底なしに使われてしまう…〃と感じた人々は一人去り、二人去り、いつの間にか救済会から信者の姿が消えていきました。

〃無理もない…〃と、たつは東洋病院から引き揚げる決断をします。しかし、むしろ〃独自のやり方で救済したい〃と新たな意欲が湧いてきたのでした。

参考文献



『大乗山法音寺の信仰と福祉』



『安立行』(下)



お寺の本棚



仏さまと私等とは親と子の間柄

親と子の関係、また夫と妻、兄と弟の関係は、われわれの目や鼻や耳が離れることができないものであるように、決して離れられない関係にあります。この関係は全く共存であり、ともに栄えるようにし合わなければならぬものであります。

真の親子というものはまた格別で、ひとたび別れても親は常に子のことを思い、会ってみればもとの親子であるのです。

法華経信解品の長者と窮子の関係は、このことをよく表しています。

長者は、昔別れたままになっていた子を見つけ、その子に自分の財産を受け継がせて、満足を得たのであります。この財産とは「無量の宝珠」といわれているものです。

無量の宝珠は、この世の中にあるすべての宝物の中で最も勝れたものです。それは妙法であり





ます。妙法は、迷っている人に無上の楽しみと安楽を与える教えます。

仏さまは、世の中の親がその所有する財産を子に与えて安心するように、法華経という宝を与えたいと、心を痛めておられるのです。

「我等真に是れ仏子なり」とありますように、仏さまと私達は離れようとしても離れることのできない、親と子の関係にあります。

われわれは仏さまに対して、わがままをしてご心配をかけぬよう、仏さまの教えによって生きていこうという心持ちにならなければなりません。

そうして、仏さまの仰せの如く、妙法蓮華経を説の如く行いましょう。必ず「無量の宝珠」がいただけるのです。

そして自分も仏となり、六親眷属までも、仏の境遇が得られる財産を受け継いでくれるような功徳を積んでいきましょう。必ず、大いに満足する日がやってまいります。

『仏性のありか』は御開山・泰山院日進上人の御遺稿です。この本を、もっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

ひろば

福祉の



幸せのお手伝い

（宝物となった

出会いと感謝を胸に）

最期はあなたに

見つけてもらえて幸せだった

施設開所の17年前、将来への不安を抱え60歳で入居を決意されたOさん。自立施設と意識高く持ち、「できることは自分で」と自分にも他人にも、そして施設にも厳しくこだわりがあり、どのように全体と調和が取れるのか私自身悩むこともありました。しかし、さまざまな場面でOさんの言動はヒントを得られる暗黙のバロメーターになっていたように感じます。厳しいお言葉にも向

き合うことで、日頃は姪を可愛がるように接してくださいました。

体力維持に日々励まれていましたが、二年前から体重や筋力が徐々に減少し、原因不明の病との戦いが始まったのです。歩行や動作、口の筋力までも低下し、咀嚼、嚥下、会話も上手くできません。言葉には決してされなかった恐怖を抱えながら、必死に明るくお喋りする姿には胸が詰まる思いです。「甘えると寝たきりになってしまう」というご本人の思いが強く、一つずつ改善につながるよう心に寄り添い「支援を受けながらの生活」

へ気持ち切替えていただくことができました。
積み上げてきた信頼関係を実感し、頼ってくだ
さることにありがたさだけでなく、安立は家族な
んだ」と日々胸がいっぱいでした。

自立施設の支援は、本人の意志と外部やご家族
とのつながりが重要です。地域包括支援センター、
ヘルパー援助、訪問看護、訪問リハビリ、薬剤管
理を加え、最高のチームとして体制が整いました。
これは間違いなくご本人の力の源にもなっていき、
希望の光が差しているかのようにでした。

昨年、改善を重ねた支援再スタートの初日、い
つも座っている椅子で眠るようにご永眠されまし
た。

これからだったのに…。悲しさ、辛さ、悔しさ
を胸に、私は必死に救急搬送していました。ご家

族が到着されると、「最期はあなたに見つけても
らえて幸せだっただろうね。家族がしないといけ
ないことをすべてしてきてくださったので、本当にあ
りがとう」と抱きしめてくださったのです。宝物
となった出会いと感謝を胸に、これからも一日を
大切に、精一杯心を込めて支援していくことを誓
いました。

ケアハウス大阪安立 グループリーダー（生活相談員）

澤口 多花



第12回 福祉実践発表会を開催



写真提供・昭徳会



社会福祉法人 昭徳会

～昭徳会の活動が『^{しあわせ}社会の幸福』へ～

令和2年2月22日に法音寺開山堂において、第12回福祉実践発表会が開催されました。外部審査員として、日本福祉大学から3名の先生をお招きし、審査にご協力をいただきました。また、日本福祉大学から2名の来賓をお招きし、職員100名、4月入職の新卒内定者28名も合わせ、総勢138名が参加しました。今回は分野を5つ（保育園／児童養護／障がい／特養／ケアハウス・養護老人）に分け、16施設が日々の取り組み内容を発表し、最優秀賞1施設、優秀賞4施設が8名の審査員によって選ばれました。

令和最初の最優秀賞に輝いたのは、障がい者支援施設・泰山寮の『「利用者の食べる喜び」支えます！効率化とおもてなしの両立をめざして！』でした。利用者へのおもてなしの心を込めたサービスを維持しながら、業務の効率化を図るといったむずかしい

課題ですが、チャレンジしていくことで手応えを感じているとのことで、自信に満ちたすばらしい発表でした。

続いて、優秀賞に輝いた4施設を紹介します。

特別養護老人ホーム・高浜安立荘は、食材の無駄を省き、データをもとに利用者の栄養状態を向上させる取り組みを報告し、光徳保育園は、子どもの人権を尊重した環境整備には家族の笑顔が大切であると、未来に向けた職員のあり方を示した取り組みを発表しました。また養護老人ホーム高浜安立デイサービスセンターは、利用者者に喜んでもらうためにはどうしたらよいかを職員一人ひとりが考えることにより、チームワークが向上し、賑わいが戻り、サービスの質が向上したと振り返りました。また児童養護施設・駒方寮は、進路支援を分担することで職員個人の負担を軽減することには成功したが、入

所者との関わりが少なく支援の関係構築が不十分であると指摘を受けたことで課題が明確になったとのことで、今後どうなっていくのか興味を引かれる内容でした。

実践発表の回を重ねるごとに各施設のレベルが高まってきており、賞に順位こそありましたが、どの施設が最優秀賞を受賞してもおかしくない発表でした。日々の実践内容や工夫に熱い思いを込めて、時に声をつまらせ、時に涙する場面もありました。

今回の発表を通して言えることは、利用者・家族の環境に『幸福』^{しあわせ}があるということです。職員の声や利用者の声を社会に発信することで、昭徳会の活動が『社会の幸福』につながる意義のある発表会でした。

福祉セミナー実行委員長 特別養護老人ホーム高浜安立荘

グループリーダー（介護員） 濱田 雷太

三重県と就職支援協定を締結

〽日本福祉大学〽



写真提供・日本福祉大学

2月28日(金)三重県庁において、本学と三重県との「就職支援協定」の締結式が行われました。本学で学んでいる三重県出身学生は、326名。三重県出身学生の三重県へのUターン就職率はこの三年間の平均で46・2%です。三重県と本学が連携・協力して、三重県内への就職を希望する学生の支援に取り組むこととなります。

本学は、一昨年1月の長野県を皮切りに、石川県、福岡県、福井県、静岡県、富山県と同様の締結を行い、今回が7県目となりました。三重県はこれまでに関西や愛知県内の大学と同様の協定を締結しており、本学が20大学目となります。

各自治体と大学との連携が進んでいる背景には、若者人口の減少があります。三重県では大学進学者の8割が県外の大学に流出し、卒業後三重県に戻る学生はそのうちの約3割しかないということです。進学等で一旦ふるさとを離れても、その後地元に戻って就職をを考える学生は、貴重な存在です。また、地元出身者に限らず、他地域出身であってもその地域での就職を希望してもらえるよう、

各自自治体は学生に積極的に働きかけています。地方創生の観点からも、学生達に雇用情報をいかに届けるのが重要な課題となっています。

本学も全国47都道府県すべての出身学生が在籍している大学として、各地域にあるサテライト・オフィスや同窓会と連携して、Uターン就職（出身地に戻って就職）・Iターン就職（出身地とは違う地方に移り住んで就職）・Jターン就職（出身地に近い地方都市に就職）支援に取り組んできました。協定締結後は、各県からの支援も得て、いっそう充実した内容を学生に



提供できるようにしました。

昨年11月に石川県と本学が共同して企画した「就職支援バスツアー」もその一つです。

「北陸地域で医療や福祉・公務員・教職の現場で働くための準備をする」ことを目的に開催し、北陸3県（石川・福

井・富山）出身の学生15名が

参加しました。福祉現場の見学、企業の業界研究会、各業種で働く卒業生との個別相談会など、盛り沢山の内容で、学生達はそれぞれの職種への理解を深めるとともに、Uターンすることへの意欲を大いに高めたようです。

また、保護者への情報提供を目的に、各地域で開催している父母懇談会には各県から担当者を招き、地元での就職活動へのアドバイスや県からの支援について、説明会を実施しています。就職活動にかかる交通費なども、学生にとっては負担となります。今年度の卒業生より同窓会と大学とが共同で、Uターン就職が決まった学生に対し、交通費の一部を援助する制度もスタートさせました。

全国各地で活躍する卒業生は、本学の存在価値を社会に発信してくれる一番の存在です。これからも、本学で学んだ学生達が全国各地で活躍してもらえよう、きめ細かな就職支援にあたっていききたいと考えています。

日本福祉大学 副学長（就職担当） 齋藤真左樹



幸せの種まき 感謝と親切

人に親切をつくすことのうれしさを 身にしみ込ませましょう

親を大切にし、お年寄りをいたわり、
子ども達を慈しみましょう。

大乗山 法音寺



編集後記

今月号より始まった「幸せのお手伝い」は、山首上人さまの人助けの事業の現場を紹介するものです。

「法音寺はこれまでお金があったから人助けをしてきたわけではありません。いついかなる場合にも困っている人がいれば救いの手を差し延べてきたのが法音寺なのです」(山首上人述)

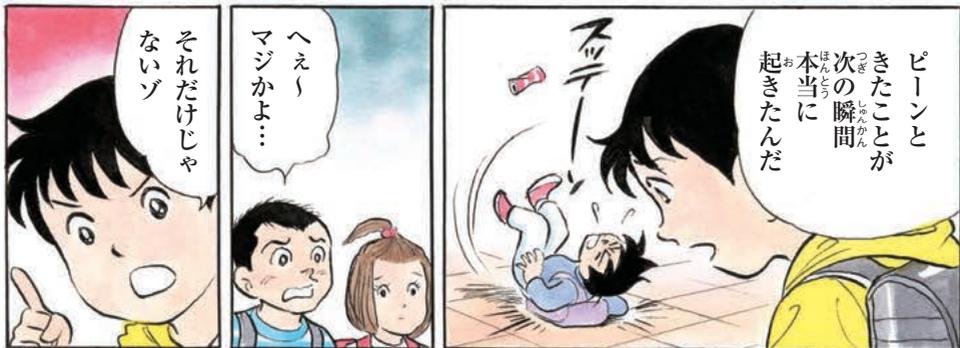
杉山辰子先生は若き日の御開山上人に「ハンセン病の患者さんのお世話をすれば仏になれる」「親のない子を育てれば法華経がわかる」とおっしゃいました。つまり「困った人を助けなければ、本当の幸せにつながる信仰にはならない」ということになりました。

各自がお題目を唱え、三徳を實行することで徳を積み、さらに人助けの事業をされる山首上人さまの菩薩行のお仕事をお手伝いすることで私達にも功德が授けられるのです。これは他のお寺とは異なる法音寺独自の信仰です。現在、昭徳会は19拠点施設で約1400人に手を差しのべ、日本福祉大学では、児童養護施設出身の学生へ就学金を援助しています。これが今、山首上人さまが取り組んでおられる人助けの事業であり、それによって私達はお徳をいただくことができます。そういう信仰ができることは本当にありがたいことだと思います。

ボクは予知能力者

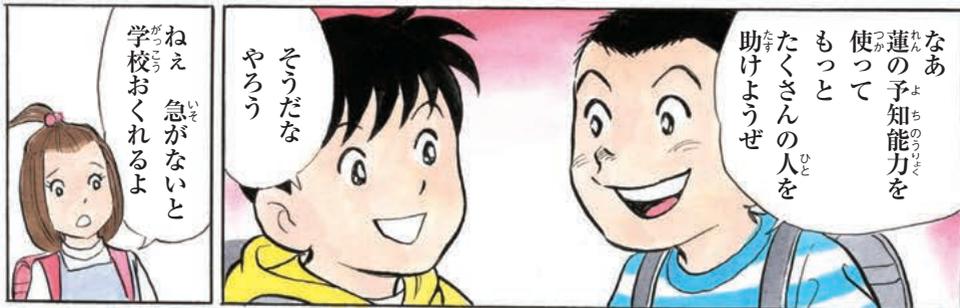
竹中 淳







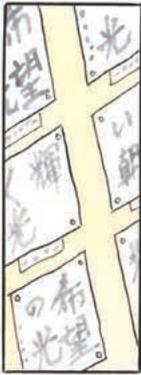








はい
ご苦労さん



そりゃ無理よ
その押ピン
とって!



蓮くんは
なにしてるの?

落ちてくる先生を
受けようと思って



先生、蓮はね
予知能力者なんだ
先生が脚立から
落ちるのを
予知したんだよ

うん
無事で
よかった

そう
すごい能力が
あるのね



ありがとう

先生!



じゃ、わたしが
ケガもなく
早く終われたのも
キミ達のお陰ね



蓮くんに
予知能力が
あるかどうか
別にして



脚立の上だもん
危ないに
決まってるじゃない
そんなの
わたしでも
予知できるわ

先生まで
予知能力なんて
非科学的なこと
信じてるんですか



法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大修行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

SNSでつながる法音寺

法音寺公式
facebookで

毎朝7時

『一日一言』
配信中!!

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらのQRコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市長和区駒方町4-10
TEL (052) 831-5171
<http://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL (0569) 87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>



法音・令和2年4月号・No.606・令和2年4月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社